

「市立幼稚園・保育所のあり方について」に関する説明会議事録

日 時	平成29年7月12日（水） 14:00～15:40	
場 所	朝日ヶ丘集会所	
出席者	こども・健康部長 教育委員会管理部長 こども・健康部子育て推進課長 こども・健康部主幹新制度推進担当 こども・健康部主幹子育て施設担当 教育委員会管理部管理課長 教育委員会学校教育部主幹	三井 幸裕 岸田 太 伊藤 浩一 和泉 みどり 長岡 良徳 山川 範 中塚 景子
事務局	こども・健康部子育て推進課 教育委員会管理部管理課	
参加者数	18人	

1 次第

- (1) 開会
- (2) 説明
- (3) 質疑応答
- (4) 閉会

2 配布資料

当日配布資料

3 議事録

(事務局伊藤) 資料は上の段と下の段の2部構成になっております。上の段が平成29年6月13日公表分、下の段が7月11日公表分です。両方とも一部変更についての連動した内容ですが、2回に分かれて公表させていただいておりますので、2段書きになっています。

では、まず6月13日公表分の部分をご覧ください。こちらは3項目ございます。1点目は、山手圏域における保育定員の確保についてです。駐車場、スクールゾーン等の課題の解決を検討し、市立朝日ヶ丘幼稚園跡地に私立幼保連携型認定こども園を誘致、平成33年4月開園予定とするということです。2月に公表させていただきました「市立幼稚園・保育所のあり方」の中では、山手圏域の保育定員の確保について、さまざまな課題があり増設ができないという内容で公表させていただいていました。しかし、現実に待機児童の方がいらっしゃいますので、そういう計画はいかが

なものかと多数、ご意見等も頂戴いたしました。当初より課題としては認識しており、検討は引き続きしていくという内容でしたが、やはり急ぎ着手する必要があると判断いたしましたので、今回、朝日ヶ丘幼稚園の跡地に認定こども園を誘致するというかたちを検討してまいります。ただ、保育所の機能を持つ施設であり、送迎に係る車の問題、駐車場、スクールゾーンといった課題があります。これらの課題につきましては非常に解決が困難だとは考えていますが、そのことについて検討を行い、認定こども園誘致を進めていきたいと考えております。

2点目は、市立打出保育所の民間移管について、民間移管の時期を平成34年4月に変更いたします。これは当初予定いたしましたのが平成31年4月でしたが、こちらを3年後ろへずらすといったことです。こちらにつきましては、もともと保育士の確保や、必要な資源の有効活用という観点から平成31年4月の民間移管の計画を変更することが難しいとご説明していましたが、やはり保護者の方をはじめ多々ご意見、お申出をいただきまして、検討をいたしました。その中で、明確に、保育士の確保が確実にできる、資源の有効活用の観点から問題がないということではありませんが、保護者様、地域の方々のご理解を得て進める必要があるという判断をいたしまして、3年後ろにずらして平成34年4月に変更させていただきたいと考えています。

3点目の、西蔵町市営住宅跡地の市立幼保連携型認定こども園についてです。西蔵町市営住宅跡地の市立幼保連携型認定こども園の定員規模については、市立伊勢幼稚園跡地への私立幼保連携型認定こども園の誘致の検討を含め、縮小を検討するということです。当初、250人から300人程度の定員規模の公立認定こども園を新設していきたいとご説明しておりましたが、定員規模が大きいことから、さまざまなご不安な要素があるというお声、お申し出を頂戴しております。市といたしましては、定員規模が非常に大きいとはいえ、さまざまな課題、細かな保育内容や避難に関しましても対応はできると考えていますが、不安の声に対して検討する必要があるのではないかとということで、縮小を検討するというのを、6月13日時点で公表させていただいた次第です。

引き続き、下段の7月11日公表分をご覧ください。6月13日公表分の3点目では、西蔵町認定こども園の定員規模については検討するということでの公表でした。それに対する検討結果が7月11日公表分になります。

では、7月11日公表分の(1)として記載しております、西蔵町市営住宅跡地の市立幼保連携型認定こども園の定員規模の縮小等についてご

説明します。統合の枠組みを変更し、伊勢幼稚園と新浜保育所の統合として1号認定こども、各幼稚園部門のお子さまが90名、2号・3号認定こども、保育所を利用されるお子さまが96名、合わせて186名の定員規模での市立幼保連携型認定こども園とし、子育て支援施設を併設していきたいと考えています。なお、宮川幼稚園は、引き続き幼稚園としての運営を行うというものです。

こちらにつきましては、資料の6月13日公表分、3番のところで定員規模の縮小を検討していくということがございました。検討を行うなかで、来年の4月から潮見圏域で私立の認定こども園が2園新設となりますがそのいずれもが200人程度以下の認定こども園になっておりますこと、また、公立の幼稚園の定員規模はさまざまですが、一番大きいもので210人程度となっておりますので、そういったあたりを踏まえて検討いたしますと、やはり今回、予定しております公立認定こども園につきましても200人程度以下が適切ではないかという判断が1つございます。そういった判断につきまして、行政内、総合教育会議等で検討した結果、やはり西蔵の認定こども園の規模を縮小するにあたっては、宮川幼稚園、伊勢幼稚園の子どもの定員を確保することを含めて合意するに至ったという状況です。

しかしながら、当初250から300人程度ということで宮川幼稚園、伊勢幼稚園、新浜保育所の3施設を統合するということでしたが、200人を下回ってくる中では3施設の統合という枠組みは維持することが難しいと判断いたしましたので、このたび伊勢幼稚園と新浜保育所の統合という形で枠組みを見直しまして、宮川幼稚園は引き続き幼稚園として運営していくという考えになりました。

186人という人数につきましては、新浜保育所のお子さまがまず約100人、実際は96人という形で今回させていただいておりますが、それと伊勢幼稚園の現在の利用者から定員186人という数字で決定させていただいたという次第です。

最後に、7月11日公表分の(2)として記載しておりますのが、伊勢幼稚園跡地に定員150名程度の私立幼保連携型認定こども園を誘致するという内容です。こちらは西蔵の公立の認定こども園の定員規模を縮小いたしましたので、幼稚園部門として3歳児の枠を確保していく必要があるといった部分や、さらには待機児童の関係の保育定員も確保していく必要がありますので、伊勢幼稚園の跡地に私立の認定こども園を誘致する必要があると考えまして、今回、公表させていただきました。

こちらの資料の説明は以上とさせていただきます、ただいまから質疑

応答とさせていただきます。

(市 民) 7月11日の公表分で、1番と2番は、おのおの場所はどこどこなのですか。2番は伊勢幼稚園跡地に、何をつくるのですか。名前は何か。

(事務局伊藤) 7月11日公表分の(1)と(2)ですね。

(1)は西蔵町に予定しております公立の幼保連携型認定こども園について、伊勢幼稚園と新浜保育所を統合して定員を186人とするということと、宮川幼稚園も統合するという予定でしたが、それは統合しないで、宮川幼稚園は幼稚園の形でそのまま継続して運営していくということが(1)です。

(市 民) では宮川幼稚園は第三者として残るわけですね。6月時点の最初は何というのが名前になっているのですか。

(事務局岸田) 認定こども園です。西蔵町の市営住宅の跡地に認定こども園を、市立で造ります。

(市 民) それで(2)のほうは私立ということですね。

(事務局岸田) そうです。

(市 民) 前回の説明会から来て、2回出ましたが、わからないことを今言わせてもらいます。

結論を先に言いますと、跡地とおっしゃいますが、長期で見れば、芦屋市は土地を放したらいけないと思います。どうですか。賃貸の方がいいと思います。

(事務局伊藤) まだどういう形で土地を民間の方にご利用いただくかは決定していませんけれども、基本的に今まではお貸しするということにはしております。

(市 民) それはよいと思います。なぜかわかるでしょう。事業者に土地を売るとします、そこが不祥事事件で潰れたとします。そうしたら土地を担保にしてい、借金の担保で移転したらおしまいです。

市で所有してほしいです。賃貸にしてください。私の意見です。

(市 民) 事前に市役所に質問状を送っていますので、ポイントだけ確認させていただきます。

まず、朝日ヶ丘幼稚園に関しては、これも建替えということで考えていますか。

(事務局伊藤) まだ決定ではないのですが、やはり今まで建替えという形が中心で行ってまいりましたので、基本的には建替えになってくるかとは考えていますが、未定の状況です。

(市 民) まだそれは決めてないというのが答えですか。

- (事務局伊藤) そうです。決定はしておりません。
- (市 民) わかりました。
全面建替えとなると費用負担としてはどれぐらい予想されますか。
- (事務局伊藤) まだ建替えと決定しておりませんので、費用負担までは完全なことではできておりませんが、今までの経験の中では解体も必要ですし、建設も必要になってまいりますので、2億円前後ぐらいの負担は市としては必要になってくるのではないかと考えております。
- (市 民) 以前にいただいた広報あしやで、200人の定員の認定こども園で4億2,000万円ぐらいの建設費で、市の負担が6,000万円、あとは国の負担と事業者負担となっていました。基本的には、この数字は生きていますか。
- (事務局伊藤) 広報あしやを発行したときには、今後どうなるかわかりませんが、国が待機児童の解消に取り組むということで、加速化プランという、市等の負担が低くなるような特別な取り組みをしています。2億円程度と申し上げたのは、そういうプラン無くなることになればということです。そこが延期されて条件が変わってくれば、またそういったことにもなってくるでしょうし、そこはまだ見えないところです。
- (市 民) そうすると、とりあえずの答えとすれば、最悪2億円はかかる可能性はあるけれども、うまくいけば6,000万円でいけるような可能性もあると、そういうことですか。
- (事務局伊藤) さまざまな諸条件がありますので、必ずしもこの6,000万円、2億円というものが、かっちりと決まるわけではありませんが、大まかな考え方についてはということです。
- (市 民) 朝日ヶ丘の認定こども園の定員ですけども、伊勢は150人ということで人数は公表されましたが、朝日ヶ丘の場合はどれぐらいで計画されていますか。
- (事務局伊藤) 朝日ヶ丘は、まず認定こども園の設置に伴う課題の解決が最優先だと考えておりますので、定員規模が何人とはまだ試算できていません。おおよそ150人から200人程度ぐらいになるかというイメージでは考えていますが、まだそこまでは試算できてはいたしません。
- (市 民) 妥当なところとしては伊勢と同じぐらいの大きさ、スペースなどから考えたら、ざっと150人ぐらいという考え方はあるかなと思います。
- (事務局伊藤) 150人というところからやはり西蔵の認定こども園のように200人ぐらいまでの間という感じのイメージになってくるかと思います。
- (市 民) それが今、とりあえず考えていることですね。わかりました。
それから、打出保育所の民間移管は延期するということですけども、こ

それを最終的に民間移管するとしたときに、以前の広報あしやでは年間2億5,000万運営費が減りますという表現になっていました。基本的に民間移管をしたときにかかる費用が約3,300万円だと思います。1件当たり1億6,000万円かかっている経費がそれで済むということで、そんなうまい話は無いのではないかとということで確認をしているわけですが、民間移管をしたら2億5,000万円ぐらいの運営費が浮くということとは確かなのですか。

(事務局伊藤) 考え方にはいろいろあるとは思いますが、ややこしい説明になってしまうのですが、公立で保育を実施しているものについて、直接、国や県からの補助金はありません。これは間違いなくありません。

ただ、交付税という別の仕組みの中でのお金の補助は国からあります。ただそれは、保育所の運営の分としていくら、ということではありません。市の運営全体として、不足があるものについては国からの補助があるという内容です。

基本的に、今回の広報あしやでもそうですが、交付税というもので国からいただく分があったとしても、それについては保育所の運営費としての直接の補助ではありませんので、収入としては見てないということです。

芦屋市は、近々の見込みとして、国からの交付税は入ってこないという見込みもありますので、その部分が本当に入ってこないとなりましたら、やはりこういう収入の部分としては無いということになります。見積もりでするので、きっちりではありませんが、約2億5,000万円の減少というところは間違いございません。

(市民) 昨日の民生文教常任委員会で長谷議員が、交付金が幾らかあって、2億5,000万円も下がるということではなく、その金額の差は、普通の町だったら3,000万円から4,000万円ではないかという話が出ました。そここのところは重要なポイントなので確認させていただきました。

それで、聞いていますことは、お金の問題が一番大きいです。確かに、幼稚園は1人当たり103万円ぐらいですけれども、保育園は1人当たり200万円かかっています。この広報あしやに掲載されている9億6,000万円の運営費を保育園の人数で頭割りしたら200万円、幼稚園も同じように入っている方の数で割ったら103万円ぐらいです。そうすると、どちらがコストインパクトと言いますか、経済的に言うと、同じように減らすのであればどちらを閉めるほうが効果はあるのかということになると、保育園のほうが、同じ10人減らすのでもコストインパクトが大きいということになります。その辺は早くすべきことだと思います。

一番知りたいことは、芦屋市は私立幼稚園や保育園にも補助金を出して

います。そうすると、市立保育所には9.6億円、市立幼稚園8園に5.6億円、それで、芦屋市の私立保育所に何億の補助金をして、要するに芦屋市全体として保育園と幼稚園で何億の金が今かかっているのかということをお教えいただきたいです。これは、事前に連絡していますので、順番で、後でも結構ですから教えていただきたいということが1点です。

次に、西蔵の定員規模を減らし、伊勢に認定こども園を造るということですが、それはそれなりの評価ですけれども、一番のポイントは、0歳から2歳までの保育、それから3歳から5歳までの教育、これを芦屋市立という名前のついた、要するに市の公の設備で、それぞれ何パーセントをカバーしようというのが目標なのですか。

端的な話をすると、全部民間移管をすると、費用が一番安くて一番コンパクトな芦屋市になって、財政的にはいいのだけでも、そういうわけにはいかないとする、どこが今の芦屋市の狙っているポイントなのかという計画が見えません。それを教えてください。

(事務局伊藤) 市の公の設備で、それぞれ何パーセントをカバーしようというのが目標なのかというご質問から説明をさせていただきますと、0歳から2歳の保育、3歳から5歳の教育というお話の中の部分ですけれども、公立施設として何割カバーしようかという考え方では基本ありません。

現状ある公立幼稚園、保育所の定員枠を基本的に増加させる方向ではなく、増加させる必要がある部分は、民間を誘致していくことが原則的な考え方です。何割をカバーしようかというよりも、今後、必要な分は民間誘致をしていく、現状の公立の定員数を維持もしくは見直していく場合は、減少することもあるという内容で、何割カバーということではないです。

もう一点の、芦屋市が私立幼稚園や保育所に支出している金額についてです。私立保育園は10園ありますが、そこへ出している金額は、5月1日発行の広報あしやにありますとおり、10園で市の負担としては3.3億円です。

(市 民) 3.3億円ですね。

(事務局伊藤) 3.3億円です。こちらが出させていただいている数字です。

(事務局山川) 私立の幼稚園に出しているものとしましては、私学助成といまして幼稚園1園当たり60万円を運営費の助成ということで出しています。今は3園ありますので、年180万円です。園に対してはその金額を出しています。

(市 民) まとめると市立保育所に9.6億円、市立幼稚園に5.6億円、それと私立保育所に3.3億円、私立幼稚園に180万円という数字です。これを足したものが芦屋市の保育園と幼稚園の運営経費だという捉え方で理解

していいですね。細かい部分はいいですけども、大きな枠として。

(事務局山川) 幼稚園の部分ですが、幼稚園はこちらの広報あしやに載っておりますと
おり公立幼稚園で5.6億円出させていただいています。

先ほど私が申し上げた私学助成は園に対する助成が180万円と、あとは保護者の皆様への就園奨励費というものがあります。これにつきましては、実際には総額として4,600万円です。そのうちの大体1,400万円ぐらいは国からの補助が入ってきますので、実質の幼稚園部分、公立も私立も含めて芦屋市として出している金額は今の部分を差し引きしますと5.9億円です。

(市 民) でしたら、公立幼稚園の5.6億円分に、私立幼稚園も入れたら5.9億円ぐらいになるということですか。

(事務局山川) そうです。

(市 民) わかりました。そうしたら、そのなかで、今から考える2.5億円や、その民間移管する金額のインパクトというものがどれぐらいのパーセンテージを占めるかというものも見えてくるので、それをちょっとじっくり考えたいと思います。

(市 民) 今お金の話を聞いていても、私たち一般市民にとってはお金がどうと言われてもわかりません。ただ、この間も朝日ヶ丘幼稚園のお母さんたちとちょっと話していました。そのときに、今日初めて平成33年ということになっていて、最初言っていた時期は平成31年だったので、延びたということですよ。

(事務局山川) それは朝日ヶ丘幼稚園の話ですか。

(市 民) 朝日ヶ丘幼稚園の話です。

(事務局山川) 朝日ヶ丘幼稚園は、当初の予定どおりで、平成31年度末で一旦統合させていただいて、建替えに1年要して平成33年です。

(市 民) それをちょっと聞こうと思いました。建替えるために3年を要する。あの跡地は「どうしようか。」と、「相談しようね。」という話をしていたのに、その話がもう頓挫してしまって、この3年間というのは、この間も道路課の人と、一方通行ですし、止まれないし、どうなるのだろうという話をしましたが、建替えも全て含めてですが、そういうことを解決するための3年間と思っただけですか。

(事務局伊藤) はい、そうですね。

(市 民) そのときにお母さんたちに聞いたら、今も年少さんは園児が16名しかいないじゃないですか。16名しかいない人が年長さんになったときに、その下はもう募集しないわけでしょう。だからこれから来年、新規の人が

増える可能性はもうないですよ。10何人しか来ないと思うから。そうなったときに寂し過ぎると言っていました。だからもう最後の年少さんの募集のときには行かないと言っています。私、何人かの人に聞きました。ということは、もう本当に入ってきません。それはどうしますか。

皆さん、岩園幼稚園へ行くと言っていました。今、どこでも行けるじゃないですか。だから、かわいそうだから岩園幼稚園へ行くと言われました。その辺のところをどう考えていらっしゃるかなと思いました。

実際の話を知ったらそれでしょう。だから私も、ああそうか、5人や6人だけが来たってね、かわいそう過ぎると思います。その辺のところどうですか。

(事務局岸田) そうですね。ちょっと今はまだ、何人になるかというのは想像の域を超えませんが、今は、平成30年度いっぱいまでは朝日ヶ丘幼稚園として運営したいと考えています。

(市民) 平成30年度ね。ということは、年少さんを今度平成30年の4月には募集するわけでしょう。

(事務局岸田) すみません、平成31年度です。

(市民) 平成30年は園児募集をしますよね。

(事務局岸田) そうです。この10月です。

(市民) その人が年長さんになるときに、その次の年少さんをとらないでしょう。ということは、その年少で入った人はね、年長になったときに現状を見ると、10何人しかいません。それはかわいそうです。

先生の数は減らされる。今でも園長先生は昨日、「もう人数が減って運営がちょっと大変です。」と言っていました。

朝日ヶ丘幼稚園は自然があるから、野菜作りやさまざまなことをしているのに、もう手いっぱいとおっしゃっていました。それが10何人になると、運営そのものがどうなのかなと思います。その辺のところはどう考えていますか。もう目の前でしょう。来年です。

(事務局岸田) はい。今のところは、何人になるかというのは想像の域を超えませんが、

(市民) でも現実に聞いたら、私、3人の人に聞きましたが、ちょうどそこへ行ってらっしゃる下のお子さんが来年、再来年にここに来る年になるけれども、その人がもう行かないとおっしゃっています。想像よりも、もうそれは決まりのような感じがしました。

それをね、いやいやそんなこと言わないで、朝日ヶ丘幼稚園せめて1年だけでも行ってくださいと言える要素があるのかどうかです。

(事務局岸田) いや、もうそのようにお伝えします。

- (市 民) かわいそうというより寂しいなと思います。
- (事務局岸田) 確かにそうですね。
- (市 民) 園長先生とその担当の先生1人でしょう。2人でしょう。補助の先生が入るか、園長先生もいろいろ考えてらっしゃって、今、週に1回、さんさんひろばをされていて、もう一つ何かされているから、その人たちを呼んで一緒に遊んでとおっしゃっていました。私も聞いていて、それだったらもう毎日そういう事業があるように何か工夫していただけたら、毎日、年長さんの10何人だけじゃなくて、小さな子から来ていいですとおっしゃったから、その人たちと交流ができる事業にでもなればいいなと思いますので、その辺のところをちょっと考えてあげてください。
- (市 民) 山手圏域の文章の中で、駐車場、スクールゾーンの解決と書いてありました。具体的にどういう解決を考えていて、大体いつごろが目安なのかというのはどうですか。
- (事務局伊藤) 今、具体的に、これでいけるのではないかというところまでの案はまだ策定できていません。まだ検討しているところで、時期や方法は今日の時点ではご説明できる状況ではないです。
- (市 民) 見通しとしてはありますか。
- (事務局伊藤) 手段は何かあるとは考えてはおります。ただ、一番施設に近いほうがいい等、さまざまな観点もありますので、解決できるとは考えているのですが、どこまでよりよいものができるかというところで、これというところまで行きついてないという状況です。
- (市 民) そういう難しい条件がある中で、私立の認定こども園が誘致される可能性は、見通しとしてはありますか。
- (事務局伊藤) この課題を解決してからでないとももちろん、民間の方にフリーパスでは見込みは立たないと思っておりますが、その部分の解決策とともに募集していけば十分可能性はあるとは思っております。
必ず誘致させないといけないと思っております。
- (市 民) そしたら、私立になるけども、そういうことについては、もう最大限努力するという決意は持っておられるわけですね。
- (事務局伊藤) はい。
- (市 民) 私はね、それが難しければ、最終的には市立でも考えざるを得ないのかなということも、これは今の時点でそういうことをここで答えることは多分難しいでしょうけども、特に幼稚園ではなく保育部分では要望があるので、最終的に私立が難しければ、市立でもね、そこにはもう絶対に確保してほしいということを申し上げたかったです。

(事務局伊藤) 保育施設は必要だとは思っておりますので、民間誘致に最大限努力していきたいと思っております。

(市 民) 解決の大体の、目安、時期というのは平成33年の開園ということになると、もう、かなり迫ります。どのぐらいを一定の目安にしますか。今年度中ぐらいには、ある程度の駐車場、スクールゾーンの解決の見通しを持つというぐらいの決意はされていますか。

(事務局伊藤) 目途までは決まっていますが、できるだけ早く建てることや、事業者の公募もありますので、それはもうできるだけ早くと思っておりますが、時期がここまでというところは決まっています。

(市 民) いつ公表してくれるのかと思っております。以上です。

(市 民) 質疑というよりも要望として聞いていただきたいことがあります。

今、私たちには1歳になる娘がいます。いわゆる待機児童になってしまっていて、嫁も働くことができず、私1人で働いていて、正直生活もとんとんな状態で続いております。

そこで、やはり保育というものに多少なりとも関心を持っておりまして、今回、朝日ヶ丘に認定こども園ができるということでこちらの説明会に参加させていただきました。

正直、とても失礼とは思うのですが、朝日ヶ丘に住んでいる者として1つ感じたことですが、やはりJR芦屋駅、阪急芦屋川駅、阪神芦屋駅からは、とても場所が遠いです。バスも阪急バスしかないという立地条件です。しかも坂がたくさんあるということで、学生の方はたくさん見られるのですが、小さいお子さんを抱いた保護者が少なく思えてしまいます。噂で聞いた話ですが、今、朝日ヶ丘小学校は3クラスか4クラスしかない、でも、岩園小学校は、8クラスぐらいはあると聞きました。何が違うのかというと、やはりそこは駅からの遠さと坂が一番要因になるのではないかと思います。

もう一つは、小さな子どもさんに芦屋市に来てもらおうと思うときに、もちろん立地条件は要ると思っておりますけれども、その周りに何があるか。朝日ヶ丘町は緑がたくさんあると、さっきおっしゃったように、自然がたくさんあるということのを売りにするためには、もっとたくさんマンションみたいなものを誘致して建てる等、跡地とか何かを探して新しい家族をこちらに誘致できないかと、そうすると子どもさんが増えて、朝日ヶ丘町にも活気が出ると私は勝手な考えですけども思いました。もちろん芦屋市として朝日ヶ丘町だけを取り上げることは難しいとは思いますが、岩園や浜の方ではやはりそういうことがなされているから多分たくさんの方が、子ど

もさんがいらっしゃると思います。でも、朝日ヶ丘はちょっと残されている。さっきおっしゃったように、朝日ヶ丘幼稚園には16名しかいない。そのなかで子どもさんがいることが1つの市の財源でもあり宝だと思いますので、何か朝日ヶ丘をアピールできるような、そういう取り組みをしていただけたらなということを1つ思っています。

もう一つですが、先ほど言ったように私の娘は待機児童で、保育園が空くことを待っています。私の両親は芦屋市内に住んでいます。多分、待機児童という枠組みの中で実家と同じ市内にあれば、失礼ですけども、じゃあちょっと実家のほうに見てもらえるでしょうと思うかもしれませんが、もう両親ともに70歳を超えています。70歳を超えた両親が0歳、1歳、2歳の子どもを一日中ずっと見ることができるか、朝から晩まで、私たちが仕事を終えて帰るまで見てもらえるかといったら、正直、それが1日ならいいと思います。それがほぼ毎日、週5日とかになれば、とてもつらいことです。そこを考えていただいて、1つの待機児童の枠というものをちょっと考えていただけたらというのが要望です。

私の主観の話でちょっと申しわけないのですが、子どもを育て上げる市として、宝として扱ってくださる芦屋市と考えて主張させてもらいたいなと思いました。

(事務局伊藤) ご要望いただいておりますところについては、芦屋市がまさしく課題として捉えている2つです。

今回の、例えば朝日ヶ丘幼稚園の跡地に誘致してくるというのも、子育て施設を誘致してくるのは山手圏域にとっての子育てのしやすさの1つにはなるかと思います。課題は非常に大きいですが、さっきおっしゃった部分も含めて取組みは進めていきたいと思っております。

待機児童も、根本的には施設の定員枠をつくっていくことが解決につながると思いますので、言っていただいたご要望はしっかりと取組みたいと思っております。

(市民) 先ほどの続きで1点です。

個別の話をするよりも、全体の話として、今の方からもあったように、待機児童が171人いますと、ちゃんと報告されています。定義を聞いたなら、要するに保育園に入りたいけど入れない人の数がこれだと言っていました。だけど、3年保育行きたいけど行けない人というのは、350人ぐらいいます。要するに言葉のマジックで、待機児童というのはあくまでも保育の定員に関してだけです。幼稚園に関して、待機児童はものすごく多いと思います。私立幼稚園は3年保育があるけれども公立幼稚園には無

いから、お金がある人は100人ほど隣の町の幼稚園に行けるけれども、行けない人が350人おるということを市としてはどう考えていますか。

文部科学省では3, 4, 5歳は、教育基本法で、教育として認めています。機会均等ということ、要するに教育の公平性ということと考えたら、受けたいと思う人が3歳保育を受けられるような社会にしないとだめだということが、僕は基本にないとだめだと思います。

今ある施設は能力がいっぱいだったら、それ以外の新設は民間にすることは基本的にいいです。いいですというのは、要するに芦屋の財政をより締めていく方向でいいということです。ところが、公立幼稚園の施設が65パーセントも空いています。これを何で使わないのですかということが市民の意見です。

それで今、待機児童をなくして、それから幼稚園を活用するというところで、芦屋市の案を出されたのですが、市民からすると、私もそう思うのですが、公立幼稚園をまずは3年保育にきなさいと思います。

そして、3年保育にしたって今の話があったように年老いた親が毎日連れていくような場合、幼稚園は行けない、保育園じゃないと行けない。だから認定こども園というのは基本的に、勤めようが勤めまいが、変わっても行けますよ、それから送り迎えの時間が遅くなっても、また早くても受け入れますよ、それから給食もやりますよと、そういういいとこ取りをして内閣府が提案しているものだから、それを取り入れるという考え方はいいですよ。

ところが、今ある使える幼稚園を壊してまで何であえてそれをする必要があるかと思います。今ある幼稚園をそのまま利用して、その中に、私の提案ですが、朝日ヶ丘幼稚園と岩園幼稚園、それから精道幼稚園と伊勢幼稚園、そこが20数パーセントの充足率です。部屋がたくさん余っています。だからそこに小さい20人以下の保育所をそれぞれ中に入れなさいと、そしたら80人一挙に増えます。芦屋市の今の待機児童170人のうちの、1歳児、2歳児は90人です。3歳、4歳、5歳はもう25パーセントぐらいです。どちらかという、幼稚園に入ったらいいわけです。

そうすると、その公立幼稚園の空いたところに、芦屋市の新しい分庁舎の中につくるという小規模保育事業所のような、民間に任せるような形で入れれば、一挙に短期間でその手は打てるわけです。昨日もどうまい議員から短期の対策はどうするのですかというお話が市議会のときにありましたが、まさしく今回の話は5年先、何年先に手は打てますけども、来年手を打てるというのは、書いていることしか打てないわけです。

だから、今すぐやるアイデアとして、私が言ったアイデアもあるのでは

ないかと思えます。それは政府も進めています。平成28年4月に緊急対策ということで、既設の幼稚園の空いているところをすぐ利用しなさいと
いっています。そういうことが出ているにもかかわらず、芦屋市は幼保連
携型認定こども園を造るのだということにこだわって、それを採用しよう
としていないところが、非常に大きな食い違いがあるのではないかと思
います。

それで私は、もし今の芦屋市の案で進んだとしたら、3歳児のカバーで
きる人数が460人ぐらいです。それで何人芦屋市にいるかという79
0人ぐらいいて、そのうち100人は市外へ行っているから、460人と
いった数になったって、全然追いつかないわけです。

そうすると、どういうことをしたらいいかという、3年保育を公立の
幼稚園に1つずつ造ります。その中で宮川幼稚園と岩園幼稚園、それから
潮見幼稚園はキャパシティが大きいから2クラスずつ造ります。要するに
11クラスつくって、1クラス30人と考えれば3歳児は330人増えま
す。現在の二百何十人に330人を足せば、670、680人の定員枠が
できます。そうすると、芦屋市内の、いわゆる幼稚園待機児童も解決でき
ます。

それから先ほど言った緊急対策としての待機児童対策、それは主に1歳、
2歳です。そこにポイントを当ててするということができるのではないか
ということが市民の感覚でものを見たときの、いわゆる計画案です。

ですから、芦屋市はこれで、昨日の議会での市長の話だと、何回か揉ん
で100パーセントになりましたというのが市長の判断でした。これはち
よっと言い方は悪いですが、普通の会社で言えば、要するに合理化、改善
をするのには、なぜなのかということを経営者が5回考えろということがパターン
です。芦屋市はまだ3回しか考えていません。まだ考える余地はあります。
今日たまたまビラをもらったけれどもこれを見ると、やはり3年保育が鍵
だと書かれておる方もいらっしゃるわけです。私も全く同感です。

そういう誰もが納得する案が、あと2回考えたらあるはずですが。それは
なぜこのようにしないといけないかという、「なぜ」を、たくさんいらっ
しゃる方が考えてないからです。今ある定数をカバーして、新設は全部民
間だけと、そのカテゴリーだけでものを考えているからそういうことにな
ります。

私の提案としては、要するに、公立の8つの幼稚園を、幼稚園型の認定
こども園化できれば、これは県の補助が来るわけじゃありません。私立で
はなく市立の幼稚園だから名称が認定こども園でなくてもいいです。しな
いといけないことは3年保育にして、0歳から2歳までの保育はしない。

ただ、教室が余った、先ほど言った4つの施設だけはする。それで送り迎えの時間を夕方遅くまでできるようにする、それから給食は順次やっていく。できれば小学校と朝日ヶ丘幼稚園と岩園幼稚園はつながっているのだから、小学校の給食設備を使って何パーセントかそういう給食をやるということをしたらみんなが望ましい方向の形になるのではないのでしょうか。

そのためだったら、打出保育所と大東保育所を民間移管して2.5億円のお金を節約することは呑もうと思います。なぜならば、市立の保育園の数が、神戸市は27パーセント、西宮市は39パーセント、芦屋市は40パーセントです。ところが今後2つを民営化したら30パーセントぐらいに落ちます。それでも神戸市等と並びぐらいになります。それよりもその2.5億円のお金を使って、今の幼稚園を3年保育にするのに1億円。それからその中に80人の緊急対策の施設をつくるのに1,000万ぐらいで十分できる話です。なぜなら、建物をいじらなくていいからです。授乳室や調乳室の整備等、簡単な工事は必要だけれども、建物をつくりかえるとかそういったことで2億円も負担しなくてもできる話です。そしたら誰も動かなく、先ほど言ったように空白ができないから、1年間たったら向こうへ行きますよということで、今ある形で動けて、かつ緊急対策もできます。アイデアはそこしかないのではないかというのが私の考え方です。

ぜひそれを検討していただいて、万が一、伊勢幼稚園と朝日ヶ丘幼稚園を民営化するという形にしたとき、入札として応募する人が、既設を使ってやりたいという人、新設し自分でつくりたいという人、2つタイプがあると思うので、それは2つの入札条件として入札する人に選ばせる。我々とすれば、バリエーションとしては、今ある十分使えるものを最大限に使えるマイナーな形のところというのが一番望ましいと思います。

だから、伊勢幼稚園と朝日ヶ丘幼稚園に関しても、壊して新設ではなく、今ある施設をマイナーで使えば、今いる人もそのまま使えるのでいいのではないかなと思います。

(事務局岸田) たくさんご意見ございましたけど、総じて申し上げますと、芦屋の幼稚園と保育所のかたちを見直して、待機児童の対策とご指摘の3歳保育のことについては、認定こども園を誘致する中で対応していきましようというのが平成27年3月に定められた子育て未来応援プラン「あしや」です。市として、そういう方針を立てたのが平成27年3月の話です。

その方針に基づいて教育委員会は平成28年2月に学校教育審議会を立ち上げて、今8つある幼稚園がどれぐらいの規模が妥当かということ審議いただいた、それが平成28年2月です。ご指摘のあった文部科学省から、幼稚園の空き教室を使ってという話、通知が出てきたのが平成28

年4月です。

待機児童対策としての緊急対策はしていかないといけないことはそのとおりですが、芦屋市は、待機児童対策と3歳保育については、この方針で行きますということを経済27年3月の時点で方針を打ち立てて、それに基づいて動いてきました。

学校教育審議会からは、中学校圏域で1園から2園という答申もいただいて、それに基づいた具体案をこの2月にお示ししました。つまりもう既にその方向で芦屋市は動いている最中で、国のほうからも緊急的という通知がありましたが、もう芦屋市はあの通知をいただいたときにも、こういう緊急的とか応急的措置もそれも効果としてはあるけれど、今、芦屋市は平成27年からこういう計画を立てて、学校教育審議会を立ち上げて、子ども・子育て会議もやって、この方向で行こうと、長い先、20年、30年先を見据えて幼稚園と保育園と認定こども園のあり方全体で考える、今は抜本的に見直す時期だということが今回のこの計画であると思っています。貴重なご提案だと思いますが、今あるところをさわってというやり方では無く、芦屋市は大きく見直す時期だというのが結論でこの計画をお示ししたと考えています。

(市民) ご意見としてはわかりますが、学校教育審議会で各圏域1園から2園という答申があることが錦の御旗といいますか、もうそれがありきです。それがあから、私らはそれに基づいて計画しています、ということです。では、それを決めた人の理屈はどうですか。今でもそう思うのですかということをもう一回学校教育審議会に聞いてもらいたいわけです。どなたがどういうふうにしたのか知りませんが、その理屈が通ってないというのが今の状態です。

それで、その学校教育審議会の人たちや、さまざまな審議会というのがありますが、全然そういう情報は聞いていませんとか、今回の話の中でいろいろ聞いているけれども、我々には詳細はわかりません。だけど、国も空いている幼稚園を使いなさい、言っていることは間違いないですし、芦屋市民も、空いているものを何で使わないのかということに関して非常に疑問を持っていることも間違いないです。

それから、将来を見て、認定こども園にするというのは、政府が文部科学省と厚生労働省の管理の枠組みをして、内閣府の新しいシステムをやるという、そういう新しい方法だから、その認定こども園にするというのは非常にいい案で、そしたら政府も考えて、いわゆる幼保連携型認定こども園と別途、幼稚園型認定こども園というのもつくってもらって、その1つが愛光幼稚園です。3年保育でしていた幼稚園が幼保連携型ではなく、幼

稚園型認定こども園をする。簡単に言えば保育園はしません。0歳から2歳の保育園はしません。3, 4, 5歳の幼稚園を続けるのだけでも、その幼稚園に入っている子どもたちを遅くの時間まで面倒見ますとか、それから、給食にしますとか、そういういいところ取りをしたらね、愛光幼稚園は入所率が3倍になりました。いっぱいになるのか心配になるような幼稚園が、幼稚園型認定こども園にしたら、もうここ2, 3年は2倍, 3倍の倍率ですと園長先生はおっしゃっていました。それだけニーズがあります。

私は、認定こども園は否定していません。今ある公立幼稚園を全部0歳から2歳の保育所を幼稚園はしないという前提で幼稚園型認定こども園にする。幼稚園型認定こども園のいいところは、本人がやりたければ保育園をしい、やらなくてもいいということです。保育園をしなければ給食は自園調理する必然はありません、持ち込みも構いません、それで、今までの幼稚園が遅くまで迎えに行ったりするようなこともできるという、いいところ取りをできるのが幼稚園型認定こども園です。だからそれをしなさいということが私の案です。

そしたら岩園幼稚園が、1部屋の保育室の面積が53平方メートルなかったらいけないが、建替えたときに部屋数を増やしたから48平方メートルぐらいしかない、だから認定こども園できませんとか理由はいろいろ言われますが、朝日ヶ丘幼稚園に聞いてみたら、今の部屋で50何平方メートルあって、幼稚園型認定こども園を開こうと思ったらできます。だから先ほど民間の方が来てくれますかという話がありましたが、公立のままで、幼稚園の中に1部屋, 2部屋, 19人ぐらいの小規模の保育所, 認定こども園という形をやれるところはやる。それは今、可能性としてあるのが岩園幼稚園, 朝日ヶ丘幼稚園, 精道幼稚園, 伊勢幼稚園です。

そうしたら今、南は保育所がいっぱいあるけれども北はないという、保育所の待機児童問題に関して、山手圏域で40人, 精道圏域で40人増えるわけです。それをしようと思ったら建物があるのだから1年あったらできます。どこにも誰も行かなくてもできます。それでそれを何も芦屋市の市の職員とするのではなく、民間から中に公設民営というタイプの形を工夫したらできるのではないかと思います。それで新しくできるところは民営化にする。スタッフを民営化にする。そういう市の方針のもとに絞っていくことはいいです。

だから私は、打出保育所と大東保育所を泣く泣く民間移管する、その目的というのが、そういうふう利用するというを説明すれば、市民が納得すると思います。

私が聞きたいことは、幼稚園型認定こども園というのがなぜできないの

かということです。それは今の学校教育審議会で決められてしまったから、自分たちにはその発想ができないですということなのか。なぜ、幼稚園型認定こども園が公立幼稚園でとれないのか、それが疑問です。

(事務局岸田) それは、今の幼稚園を使って、公立の幼稚園型認定こども園を行うというご意見ですね。

(市 民) そうです。それで0歳から2歳の保育部分を、半分以上はしません。部屋が空いているところはそこを保育園のいわゆる小規模保育事業所として公設民営でやったらいいです。

(事務局岸田) 部屋の空いているところというのは、ご指摘あった、単学級の幼稚園が逆に言うとそれに当たるということですか。朝日ヶ丘幼稚園、精道幼稚園、伊勢幼稚園が単学級です。

(市 民) 岩園幼稚園もそうです。あそこも単学級です。

(事務局岸田) 岩園幼稚園は今、ご指摘あった面積要件は置いておいて、それでも朝日ヶ丘幼稚園、精道幼稚園、伊勢幼稚園は今、単学級で2クラスしかないので、逆に公立の幼稚園型認定こども園をして、さらに空いている部屋が1つか2つできるだろうと、そこを小規模保育事業所でも入れたらどうだという案ですね。

(市 民) そうです。

(事務局岸田) それは、幼保連携型認定こども園ですよ。その形がまさしく幼保連携型認定こども園です。

(市 民) 幼保連携型だったら、運営が全部芦屋市です。西蔵も精道も市立の認定こども園をしようとしています。それを今の朝日ヶ丘幼稚園とか伊勢幼稚園とか精道幼稚園、それから岩園幼稚園も幼稚園の部分の認定こども園は市立だけでも、中に入る小規模保育事業所に相当するところは民間が運営したらいいです。頭のまとめとして市立でやるという形で、要するに民間の活力を利用するという形を積極的に取り入れるアイデアもあるのではないかと思います。

それが無理だったら、その4つの小規模保育事業所は市立にしたって職員の数は4人です。4人掛ける4か所だから16人です。年収500万円としても8,000万円です。1億円あれば賄えます。そうしたら大東保育所と打出保育所で2.5億円浮くのだったらその小規模保育事業所に1億円。それから今言う、3年保育の形にするための1億円、それで出費がなくても十分賄えるでしょう。それを説明したら芦屋市民は納得するし、ぜひそれをやれということに必ずなると私は思います。

(市 民) 若いお父さんが帰ったので、ちょっと残念ですけど、1歳の娘さんが保

育園に入れないということですが、この地域には、朝日ヶ丘町に一戸建ての民家を利用したHANA保育園という小規模保育事業所があります。ちょっと下がって、あゆみ保育園という0歳から2歳の認可保育所があります。それから岩園保育所は、これは2歳からです。思うのですが、岩園幼稚園は噂によれば、ガラガラだと聞いています。今のお父さんの、もう本当に誠実な声を聞いてあげようと思ったら、この岩園幼稚園の中に小規模保育事業所を民間募集して、すぐにでもこれは使えるのではないかと思います。

ですからやっぱり、市役所の方は現実から出発して考えてなかったら、何か平成29年にこういう方針が決まったからこれでいくのだという、それもいいのですが、やはり刻々と現実が変わっておりますので、柔軟に対応してもらいたいということです。

それから先ほど、前のお母さんがおっしゃいましたけども、いわゆるこの募集停止している間、まあ逃げてしまうと云いますか、他の施設に行ってしまうという不安が広がります。今は、いいか悪いかは別にして、保育、幼児教育、取り合いというのか、園バスが走り回っています。西宮は西宮浜にいるか幼稚園があるし、東灘には青い鳥学園があり、その園バスが芦屋でも走り回っています。だから芦屋市が、例えば朝日ヶ丘幼稚園を廃園にして、それから民間の幼保連携型認定こども園を募集するのだと、それを言っている間にもう、お母さんも子どもさんもどこかへ行きます。

だから、現実から出発すれば、朝日ヶ丘幼稚園を残そうと思ったら、まず、3歳児を受け入れて、いろいろ3歳児保育をして、そのまま幼稚園でいくのか、公光町の愛光幼稚園がしているような、保育機能も付加した幼稚園型認定こども園にするのか、それはその地域によって考えたらいいと思います。いずれにしても3歳児保育をまずして、300人ほど市外に流れている子どもを取り返して、で、これが肝心だと思いますが、途中で、何か芦屋市はごちゃごちゃと組織をいじっているなという印象を市民に与えない。ずっと朝日ヶ丘幼稚園はあるのだという、今もあるしこれからのあるのだというメッセージを市民に与えることが、安心して朝日ヶ丘に若い市民の方が移ってこられることにつながると思います。市民税を払っていただける方、場合によったら固定資産税も払っていただける方が来ると思います。

私も大津市役所に行ってきたのですが、大津市がこの4月から幼稚園3歳児保育をします。おもしろいと思ったことは、3歳児を募集しても集まらなかった場合、3年間連続規定適正規模が集まらなかった幼稚園については、統廃合しますよということです。これは現実的な話だと思います。

だからまず芦屋市も、廃園や民間誘致をやめてもらって、今ある組織を基本にして考えてほしいです。西藏の認定こども園についても、津波が来る。伊藤課長が民生文教常任委員会で水平避難と、それから垂直避難ですか、何か高層の逃げ場をつくると言っていました、そんな建物は建築費が高くなり、市民が納得しません。

ということで、ひっくり返すような、革命みたいなことをしないでください。本当にひっくり返すようなことをしています。もっと現実に出発して、保護者の立場で少し変えていくという、それをお願いしたいと思いません。

最後に質問ですけども、さっき朝日ヶ丘幼稚園の何か2億円というお話が出ましたかね。建替えの、取壊しの費用とか。それはこれまでのデータを見れば、民間の場合は民間業者が解体費用を払って、それで新しい認定こども園は民間業者が建てるのではないですか。この2億円は何ですか。
(事務局伊藤) 取壊しや建てるということは民間に、今までも過去もしていただいていますので、基本的な流れはそうなると思います。

解体に関しては、国等からの補助はありませんので、市が補助する形になります。普通でしたら、運営費でしたら国が2分の1、県が4分の1、市が4分の1という負担の割合と言っている部分は、解体に関しては市が原則的に、全面的に補助するということです。

建設に関しては一定の割合が国、県、市の負担がありますので、そういったところもあわせて、制度がどう変わるかわかりませんが、今と違う割合になったら2億円ぐらいかかってくるのではないかと思います。
(市民) 民間業者が建設した場合も、民間が全部出すのではなくて、市も負担するということですね。わかりました。

(市民) さきほどの若いお父さんが言っていたことを実はうちも経験させてもらいました。今、芦屋市の条件として保育所は65歳以上でないといけないとだめという条件があります。65歳以上でないといけないと親が面倒を見なさいという条件です。

(事務局伊藤) 見なさいということではありません。

(市民) いや、うちは、はっきり言われました。お母さんが午前中しか働いてないのだから、お昼からあなたが働いて、お母さんに面倒見てもらいなさいと言われました。

おじいちゃん、おばあちゃんが本当に孫の面倒を見るということはずごく大変です。その部分を、削除と言ったらおかしいですが、もう条件に入れないでほしいです。

それと、もう一つ私が思ったことは、西蔵町市営住宅に伊勢幼稚園の方が通うということは今以上にすごく大変だと思います。

幼稚園というのは、お手々つないで行ってらっしゃいというのが普通です。ちょっと考えてほしいと思うことは、伊勢幼稚園跡地につくるのであれば、伊勢幼稚園を西蔵町に入れなくてもいいのではないかと思うのですが、そのところをどう思いますか。

(事務局伊藤) 1点目の65歳以上の方のという条件ですが、65歳に到達してないご親族の方がいたら保育所の利用を制限しますという意味ではないです。今、待機児童が非常にいますので、同点の状況になったときに、近所に親族の方がいらっしゃるのか、全然いらっしゃらないのか、本当は全員の方に入っていただきたいのですけれども入れない状況がありますので、そういったところで入所される、入園される方をどう決定するかというときに、65歳までのご親族の方が近所にいらっしゃるかどうかが。そこを見ているだけですので、65歳以上のご親族の方が近隣にいらっしゃる場合、そうじゃないと保育所の利用を制限しますといった意味ではありません。説明の中で行き違いがあったかもわからないのですけれども、そうではないということです。

(事務局岸田) もう1点の、西蔵の認定こども園で伊勢幼稚園を外したらどうだというご意見ですが、外すということは、伊勢幼稚園として残すということですね。

(市民) 伊勢幼稚園の跡地に私立の認定こども園をつくるでしょう。

(事務局岸田) はい。

(市民) そしたら、言い方悪いですけど。

(事務局岸田) しなくていいのではないかとということですか。

(市民) そう。

(事務局岸田) 伊勢幼稚園の跡地に私立の認定こども園を建てようと思うと、一旦お子さんが0人になり、空にして、取壊して1年かけて建替えるという、まだ決まっていませんが、恐らくそういうことになるだろうと思います。

その間、伊勢幼稚園のあのあたりは、行くところがなくなってしまうことになるので、今回は西蔵町の認定こども園が平成33年にできたら、その段階で伊勢幼稚園にいるお子さんのうち、5歳の子は卒園ですが、4歳のお子さんがそこへ行っていただくということです。これはもう一応枠を30人ですが確保して行っていただきます。行っていただいたら伊勢幼稚園が空きますので、その1年の間に私立が建てたら、上手につながるのではないかと趣旨です。

そこから以降は、西蔵の認定こども園も、伊勢幼稚園のお子さん専用で

すということでは基本的にはなくて、認定こども園ですから、いろんなところからも多分ご応募はあると思います。

1年といいますか、伊勢幼稚園の4歳のお子さんが平成33年4月に5歳にあがろうと思うときに行き場所がなくなってしまうので、西蔵のところへということで、統合の枠を考えているということです。

(市 民) じゃあ、幼稚園に関してはもう、認定こども園とするときには建替えが前提ですか。

(事務局伊藤) 基本的には建替えが前提という考えです。幼稚園はもともと、公立であれば4歳、5歳の方の利用を前提に設計して建物をつくっていますので、もちろんそこに給食設備を増設したり、低年齢の設備を増設したりということで、対応することは、できないことはもちろんないですが、今後長く使っていくと考えましたら、やはりきっちり低年齢児も含めたかたちで建て直すほうがいいと考えています。

(市 民) 要するに、今のところが一番大事なポイントです。建替えずにすれば、移動せずにできます。民間にやるために潰してやれば1年間使えませんが、私は認定保育園をするために、今の建物を利用して、中にマイナーな改造でやる。

自分で調理するというのも、今の幼稚園の中でやろうとしたら大変なことになります。潰さないといけないと思います。だけど、自園調理、要するに認定こども園の幼稚園型は自分で調理しなくていいです。それは県に確認しましたよ。幼稚園型の認定こども園の要件としては、0歳から2歳の保育園部がなければ自園調理設備の必要はないと確認しました。そしたら、その中で、小規模保育をするときのところだけを考えればいいです。それは、調乳室等、全部の園児の調理をそこでやるとか考えずに、朝日ヶ丘幼稚園だったら朝日ヶ丘小学校の給食センターからでも隣り合わせで持ってきたらそれで済む話です。そういうことで、調理の問題も合理的に考えられます。

だから、長い目で見たらと簡単に言うけども、朝日ヶ丘幼稚園や耐震をした伊勢幼稚園が、あと何年かで潰れるというのか、使えなくなるのか、そういう見通しをきちっとして、これを潰してこうやったらこれだけのお金がかかるけれども、マイナーチェンジで動かずにやるのでしたら、このお金でいけますと言って出してほしいです。

そうしたら、それを見て市民は、どっちがいいと納得します。それを出さずに、感覚的に潰したほうが簡単だというのはちょっと乱暴な話ではないかと思います。

前の資料では6,000万円の負担でできるものが、時期が変わったら2億円かかるかもしれませんなんていう論議を今日初めて聞きました。

それと、もう一つ、私が気になっているのが、西蔵に持っていきたい理由というのが変遷してきて分かりません。私は、幼稚園が8園あっても何10年という中では建替えしていかないといけない。そういう建替えするときに逃げが必要だ。だから西蔵の新しくつくる認定こども園は、その逃げのために考えるという考え方をして、伊勢幼稚園等が移動せずに、新たに西蔵だけ小さい規模でつくり、園バスにして、芦屋市全域から、西蔵にだけは行けるようにするというのも1つのアイデアだと思います。

そのときにひっかかることは、よく部長が児童支援施設というのを西蔵の認定こども園の横につくりたいと何回も言っていました。内容は何かと聞くと、まだ未定ですと答えが返ってきます。それで、昨日の市議会でもその話が出て、まだ未定ですということでしたが、市民側からすると、ハコモノをまたつくりたいと考えているのではないかと疑いをかけるわけです。呉川町にはきちんとした福祉センターがあって、そこにもいるんなものがあります。それで宮川を挟んですぐ隣にまた同じような子育て支援のセンターで、その内容もまだイメージされてないようなものをぜひつくりたい、ぜひつくりたいと言いますが、まず何をつくりたい、何の目的で何をつくるのか明確になってから初めてそういう話が出てくるのと思います。だからそれが決まっているのならば、教えていただきたいです。

(事務局三井) 今お話にありました西蔵町の中で子育て支援拠点をを行うということですが、様々な形があると思っています。

もともと認定こども園自体も子育ての支援という形で、相談機能等を備えた施設です。それは幼稚園も保育所も一緒です。その中でしていくのであれば、今回公立で運営するので、可能な限りそういう支援のものを、例えば呉川町にあるような子育てセンターです。昨日お答えさせていただいたのは、2つ近くにつくるということはよくないので、一番わかりやすい例とすればそういうもの、そういうものについては今後、内部で論議もして、一番いい形をつくっていききたいのが今の考えです。

具体的には、できるだけ保育所なら保育所、幼稚園なら幼稚園、認定こども園なら認定こども園単体ではなくて、今後はできるだけ多機能なものをつくっていききたいというのが大きな考え方です。

それともう一点、現在ある施設を使ってということについて、ちょうど平成26年に浜風幼稚園の跡地に認定こども園を募集する際に、我々がまず考えましたのは、「あるものも使ってもらっても大丈夫。」「改修しても

らっても大丈夫。」「増築してもらっても大丈夫。」「建替えでも大丈夫。」という形で公募しようと考えていました。それは民間に知恵を出してもらったらいいと思っていました。しかし、調べていく中で、当然、民間事業者も何法人か調査をしました。やはり幼稚園を改修するということになると、さっきおっしゃったように調理室や、給食の問題、そういうことを後からの動線ということになりますと、やはり動線がなかなか難しいというのも当然ご意見をいただいています。

特に最後にご判断させていただいたのは、選定員会の中でも、これについてはぜひ建替えということも十分検討してほしいという意見がありました。既に他市で改装したところもあるけれども、どうしても後からの改修になるので、特に子どもの給食関係があります。運んだりするときに子どもの通る部屋を通過してしまわないといけない等、よくないところも見ているというお話もありました。そういうかたちの中で、最終的に浜風幼稚園で誘致させていただくときには新設でさせていただきました。

完全に決め打ちではありませんが、一定の耐用年数がたっているものにつきましては、少しもったいない部分もありますけれども、この分については子どもの安全、衛生面を考えて、今現在は建替えのほうが良いと考えています。

(市民) 先ほどから理想論については、私も同感です。ただしですね、会社勤めされていた方はわかると思いますけど、社長が右向けと言ったら部長クラスで、「いや社長、それはけしからん、左です。」と言えますか。私は皆さんに前から言っています。

さっきの話でも市長が100パーセント立派な案だと言っています。市長が100パーセント立派な案だと言っているのに、我々が何か言って、部長は変えられますか。変えられないでしょう。だからまあそれはそれで置いておきます。

聞きたいことは、さっきから認定こども園とか幼稚園とかおっしゃっていますが、浜風の認定こども園は来年4月開園ですけど、管轄担当部署はどちらですか。

(事務局伊藤) 子育て推進課です。

(市民) これから認定こども園と幼稚園が混在します。認定こども園は子育て推進課ですか。そして、幼稚園は教育委員会ですか。相変わらず縄張りで、国と一緒に、国の厚生労働省と文部科学省でしていることを芦屋もそっくり行うのですね。今回の機会に新しい部署を1つ作ってはどうか。市長が作ると言わない限りはできませんよね。それはそれで言うことはやめ

ておきます。

認定こども園が0歳から5歳までです。幼稚園は今3年保育をやる気はないでしょう市は。前からそう言っていました。副市長もやらないとはっきり公式の席で言っていたので、それをひっくり返すことは大変だと思います。それはさておいて、幼稚園は4歳、5歳だけです。2年保育です。いい悪いは別にして聞きたいことは、例えば3歳の子がどこも行ってないとします。認可外保育施設が結構あります。そこで2歳まで行って、3歳になったので3年保育に行きたいからといって、認定こども園の3歳児クラスに入れてもらえますか。

(事務局伊藤) 1号認定と呼ばれている幼稚園の部分は応募できます。

(市民) ところが今ね、民間の幼稚園ではほとんど3歳保育しています。それで、芦屋市がしているのは4歳、5歳です。

精道幼稚園が精道保育所の近隣の土地が買える、買えないで潰す、潰さないと言っています。そのときに、もし買えなかったら精道幼稚園潰しますというのは、まだ、完全には流れていません。そうすると、4歳で放り出されます。そうすると、若いお母さんに聞くと、4歳で追い出されたら民間の幼稚園なんてどこに入れますか、芦屋の教育委員会は何を考えているのですかと怒っています。もったもだと思います。ただし、民間の幼稚園は、空きがあればとってくれるというらしいです。だけど、普段でも空きがないと言っているのに、このややこしいときに空きなんかあるわけないです。

そうすると、その子は4歳、5歳、幼稚園へ行けないです。そうすれば、初めからやめておこうとなります。もう3年保育の私立へ行くか、西宮のもっと設備のある、もっと福祉のいいところに行くわと言っています。この辺はちょっと頭の隅に入れておいてください。私、具体的に聞いています。これ、理想論でも何でもありません。現実論です。

案が変わったのは3回目ですが、公立が私立になったり私立が公立になったりしていますが、陰で、縄張り争いで取り合いしないでくださいね。

(市民) 今の関連で、私が最後に言いたいことは、今、前に職員がたくさんいるでしょう。これ普通の会社だったら信じられないぐらいの人間がいます。それで説明会を4回することは無駄です。これを、要するに1回で、このインターネットが発達したこの時代でどうしてできないのかと考えます。

それと、認定こども園に全部してしまいなさいということは、はっきり言ったら、組織を1つにしなさい、責任を1か所にしなさいということです。そしたらこっちの半分の人は仕事余ります。組織をもっと小さくする

ためには、幼稚園、保育園を、こども・健康部でやるということで、教育委員会から外しなさいということをもっと逆を言ったらいいと思います。

要するに組織をもっとコンパクトにする。何回も何回も6人も出てこない。それが大事なことだということをもっとわかってもらいたいです。民間の会社だったら考えられないようなことです。

(事務局伊藤) それでは、長時間にわたりましたが、本日はどうもありがとうございました。